

これからの学校教育を考える

子どもたちの未来のために



減り続ける子ども数とクラス数

全国的な少子化が進む中、児童生徒の減少にともない、小中学校の小規模化が進行し、さまざまな面への影響が心配されます。多可町でも、近年出生数が大きく減少し続けています。出生数の減少にともない、児童生徒数、クラス数が今後徐々に減少し、小規模化が進行していくことは明らかです。望ましい学校規模の基準として、多可町では「多可町小中学校規模適正化基本方針」において、小学校の場合は「複式学級が生じないこと」、中学校の場合は「1学年に2クラス以上が確保できること」と設定しています。

令和元年の町内出生数

77人
平成17年の出生数
171人から55%減

学校規模が維持できない

多可町では、八千代中学校で今年度初めて1学年が1クラスとなりました。加美中学校でも来年度1学年で1クラスとなる見込みです。望ましい学校規模が維持できない状況が生じる場合は、「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置し、保護者や地域と一緒に子どもたちのより良い教育環境の確保に向けて協議する必要があります。

そのため、このような状況をふまえて、今年7月に会を立ち上げました。

小規模校とは？

	過小規模校	小規模校	適正規模校
小学校	1~5	6~11	12~18
中学校	1~2	3~11	12~18

クラス替えができる2クラス以上
1学年4クラス以上

望ましい学校規模

※多可町の独自基準です

小学校

複式学級が生じないこと

複式学級とは

児童生徒数が少ないために、「2つの学年」を「1つの教室」に編制する学級のことです。

中学校

1学年に2クラス以上が確保できること

小学校

小学校の児童数は、平成23年度から10年後の令和3年度には、約6割に減少し、さらに令和8年度にはおよそ半分となる見込みです。クラス数は、令和8年度には中町南小学校以外の学校で全学年1クラスとなります。小学校のクラス編制は、1~4年生までは1クラス35人が上限となり、5年生以上は1クラス40人が上限となります。(兵庫県基準) また、2つの学年の児童数が合わせて14人以内の場合は、複式学級となります。(兵庫県基準) ただし、第1学年の児童を含む学年は8人以内となります。

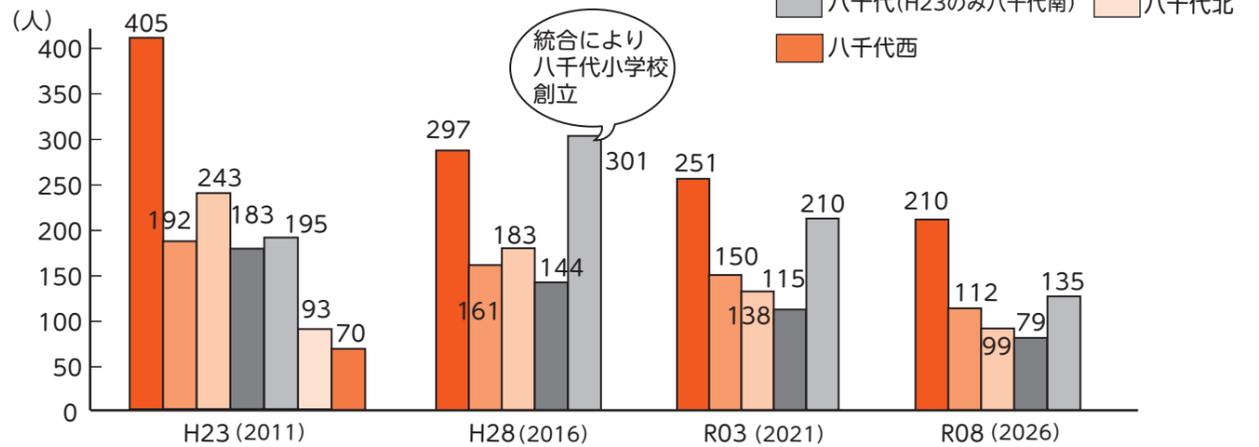
統合により八千代小学校創立

中町南小学校以外は、全学年1クラスに!

みんなが主役だよ!

クラス替えができないね

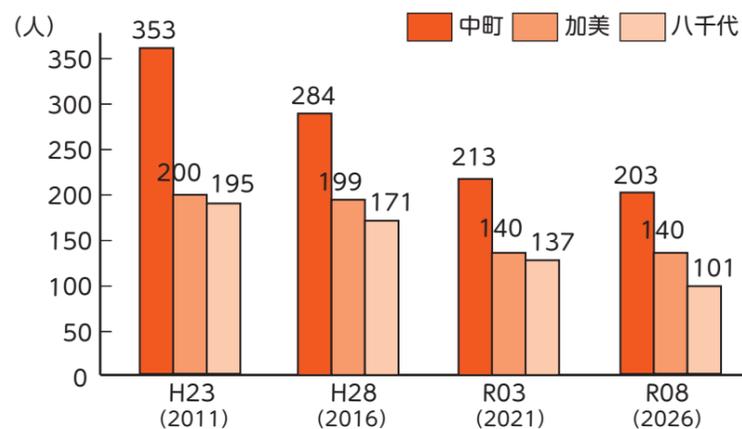
小学校の児童数の推移



小学校のクラス数の推移

	H23	H28	R03	R08
中町南	13	12	10	8
中町北	7	6	6	6
松井	10	7	6	6
杉原谷	6	6	6	6
八千代南	7			
八千代北	6	12	8	6
八千代西	6			

中学校の生徒数とクラス数の推移



中学校

中学校の生徒数は、平成23年度の748人から15年後の令和8年度には444人となり、約6割に減少します。クラス数は、令和8年度に初めて八千代中学校で全学年1クラスずつとなり、令和10年度には加美中学校も全学年1クラスずつとなる見込みです。また、中町中学校では、令和12年度に1学年で初めて1クラスとなる見込みです。

中学校のクラス数の推移

	H23	H28	R03	R08
中町	10	8	6	6
加美	6	6	5	5
八千代	6	6	5	3

八千代中学校は全学年1クラスに。R10年には加美中学校も全学年1クラスになる見込み。

中学校クラス編制

1クラス40人編制です。例えば、1学年41人の場合、20人と21人の2クラス編制となります。



小規模校の課題に向き合う

多可町では、すべての小中学校がクラス数11クラス以下の小規模校に分類されます。児童生徒数の減少が進めば、クラス数が減少します。クラス数が減少すれば、学校にいる先生が少なくなり、この状況を心配される面と考えるのか、良い面として捉えるのか。

小規模校が持つ、学習面、生活面、学校運営面など、さまざまな課題について議論を深める必要があります。

少し先の未来を見据えて

このような現実をふまえて保護者や地域の意見を幅広く取り上げ、学校の小規模化とそれに伴う諸課題を地域と共有した上で、少し先の未来を見据えて考える時期がきています。

子どもたちの個性を伸ばし社会性を育み、生きる力を身につけるために、学習や生活の場として望ましい学校規模（適正規模）の実現を目指します。



	良い面	心配される面
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童生徒の1人1人に目が届きやすく、きめ細やかな指導が行いやすい。 ◆意見や感想を発表できる機会が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ◆運動会などの学校行事や集団教育活動に制約が生じやすい。 ◆中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ◆1人1人がリーダーを務める機会が多くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆クラス替えが困難なことから、人間関係や相互の評価などが固定化しやすい。 ◆切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> ◆全教職員間の意思疎通や連携が図りやすい。 ◆学校が一体となって活動しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いにくい。 ◆1人の教職員に複数の業務が集中しやすく、負担が大きい。



部活動への影響

中学校での『部活動』は、生徒指導においても大切な活動であることは言うまでもありませんが、生徒数の減少により、顕著にその影響が現れています。

部員の確保が難しいことから、廃止になる部活動も増え、生徒の選択肢の幅が狭まります。また団体競技においては定数が確保できず、他中学との合同チームとなることが近年増えています。

教職員の減少と負担増にともない、部活動の指導者不足も深刻です。

その結果、部活動に入らず、より良い環境を求めてクラブチームに所属する生徒も年々増加傾向にあります。

中学校部活動の状況 (令和2年7月末現在) ※3年生は7月で引退。吹奏楽部は11月引退。

種目	中町中学校				加美中学校				八千代中学校			
	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計
軟式野球	2	5		7	1	0		1	2	2		4
ソフトボール	1	6		7	4	3		7	5	6		11
男子バレーボール												
女子バレーボール	7	5		12	10	4		14	令和元年度廃部			
男子バスケットボール		3		3								
女子バスケットボール		6		6								
男子テニス	3	9		12	6	9		15	10	7		17
女子テニス	6	7		13	11	6		17	8	10		18
サッカー	10	1		11	11	6		17	4	13		17
陸上競技	4	4		8	9	9		18				
剣道	10	13		23								
吹奏楽	9	6	10	25	3	8	5	16	11	6	6	23
美術	令和元年度廃部											

※中町中学校男子バスケットボール部は令和2年度廃部。女子バスケットボール部は令和3年度廃部予定。

子どもたちによりよい教育環境を

学校は、生きる力を身につける場であるとともに、多様な考えや体験を持つ児童生徒が集団を通して切磋琢磨し社会性を培う場です。

効果的な教育活動を展開するには、教科などの学習はもとより、運動会や生活発表会などの学校行事やクラブ・部活動などにおいても一定規模の集団を確保する必要があります。

多可町では、『多可町小中学校規模適正化基本方針』に基づき、今年度から『地域の学校教育のあり方を考える会』を設置し、令和3年度の意見書提出を目指して適正な学校規模について協議を進めています。

傍聴にお越しく下さい

『地域の学校教育のあり方を考える会』

学校規模の適正化に向けた具体的な方策について、協議を行っています。

会議は一般の方も傍聴できますので、希望される方は教育総務課までお問い合わせください。

第3回開催予定
 と き 10月14日(水)午後7時30分～
 と ころ ベルディーホール会議室

■問合せ先 教育総務課 Tel(32)2384